

## 第3回

日本体育・スポーツ・健康学会 若手の会セミナー

## 報告書

アーリーキャリアの過ごし方と必要なサポート

—博論・就職・テニユア—

日時：2023年3月19日（日）13:00～16:30

会場：順天堂大学 本郷・お茶の水キャンパス & Zoom

方式：ハイブリッド形式

主催：日本体育・スポーツ・健康学会若手研究者委員会

第3回 日本体育・スポーツ・健康学会 若手の会セミナー

# アーリーキャリアの過ごし方と必要なサポートー博論・就職・テニユア

## ●セミナースケジュール

|             |                    |
|-------------|--------------------|
| 13:00～      | 開始・趣旨説明・演者の先生方のご紹介 |
| 13:10～14:30 | 演者の先生方のご講演         |
| 14:40～15:00 | パネルディスカッション        |
| 15:00～15:20 | フロアとの質疑応答          |
| 15:30～16:00 | グループディスカッション       |
| 16:00～      | 閉会挨拶               |

## ●演者

|        |                     |
|--------|---------------------|
| 小口 貴久  | (公益財団法人日本オリンピック委員会) |
| 小倉 かさね | (順天堂大学)             |
| 木村 駿介  | (静岡産業大学)            |
| 中西 紘士  | (広島修道大学)            |
| 野上 玲子  | (江戸川大学)             |

開催日時：2023年3月19日（日）13:00～16:30

会場：順天堂大学 本郷・お茶の水キャンパス 10号館105カンファレンスルーム ・ Zoom

方式：ハイブリッド形式

主催：日本体育・スポーツ・健康学会若手研究者委員

コーディネーター：雨宮 怜（筑波大学）・平塚卓也（関西福祉大学）・藤川和俊（帝京平成大学）

問い合わせ先：平塚卓也（[hiratsuka@kusw.ac.jp](mailto:hiratsuka@kusw.ac.jp)）

申し込み先：<https://forms.office.com/r/hjF9kNTWtX>

参加希望の方は、3月16日（木）までに上記URLまたはQRコードよりお申し込みください。期日までにZoom参加の申し込みをされた方にのみ、ZoomのミーティングIDと、パスコードをご連絡いたします。なお、定員に達した場合、期日前に締め切る場合がございます。オンデマンド配信はございません



# 【演者プロフィール】

## 小口 貴久（公益財団法人日本オリンピック委員会）

小学5年生からリージュを始め、信州大学大学院在学時にソルトレイク2002冬季オリンピックに出場。大学院修了（教育学）後、トリノ2006、バンクーバー2010の2大会に出場。専門はバイオメカニクス、コーチング、スポーツ情報戦略、オリピズム。引退後、日本オリンピック委員会での業務を担当しながら日本体育大学大学院博士課程修了（コーチング学）。現在は日本オリンピック委員会にて選手の強化・育成に関わるJOCエリートアカデミー事業ディレクターを担当。JOCアスリート委員、日本氷上スポーツ学会理事、日本オリンピックアカデミーセッション委員会副委員長、日本ボブスレー・リージュ・スケルトン連盟医・科学および指導者養成部員。



## 小倉 かさね（順天堂大学）

順天堂大学 リサーチ・アドミニストレーター（URA）。スポーツ科学部在学中に学生トレーナーとして活動する中で代謝学に興味を持ち医学研究科に進学。修士・博士課程、研究員を経て、筑波大学体育系ヒューマン・ハイ・パフォーマンス先端研究センターのURA（研究員）として研究支援者としてのキャリアをスタート。大型研究プロジェクト獲得やその運営、国内外の他機関・企業等との連携・共同研究の推進、国際フォーラムの企画運営などに携わりました。現在、順天堂大学のURA（高度学術専門職員）として、研究費申請支援や、研究ブランディング（特にスポーツ医学関連分野）、産官学連携・地域連携等の支援を行っています。



## 木村 駿介（静岡産業大学）

研究テーマは「アスリートの挫折体験」や「共食（きょうじょく）の心理的効果」について。立教大学大学院在籍時には、博士課程前期課程の時に公益財団法人日本ラグビーフットボール協会にも所属し、男子7人制アシスタントマネージャーやU20歳日本代表チームマネージャーを担当。博士課程後期課程在籍時には中高一貫校ラグビー部の外部指導者としてコーチや監督を勤めた。また、埼玉県中学校選抜のコーチも経験した。博士号取得後には半年間のフリーター生活を経て立教大学教育研究コーディネータ（助手に相当）。2022年度より現職である静岡産業大学スポーツ科学部専任講師に就任。



## 中西 紘士（広島修道大学）

専門は「体育科教育」と「カリキュラム研究」。大学卒業後、公立小学校の教員を12年、広島大学附属小学校体育科を5年、環太平洋大学准教授で4年の勤務を経て現職に至る。広島大学附属小学校時代に博士課程前期を修了し、環太平洋大学で勤務しながら博士課程後期に進学、博士号を取得した。体育科教育の中でも、陸上運動領域や器械運動領域を中心にカリキュラム研究を行っている。広島県内を中心に多数の小学校に講師として関わりながら、現職の先生達と共に体育の授業改善、教材開発に取り組んでいる。



## 野上 玲子（江戸川大学）

東京都出身。福岡大学スポーツ科学部卒業後、同大学院修士課程を修了し、福岡大学スポーツ科学部助手、教員として福岡県の中学校に勤務。その後、結婚、夫の仕事を機に帰京し、出産。子どもが4歳になるタイミングで日本体育大学大学院博士課程に入学し、東京学芸大学特任講師の仕事をしたが、博士号（体育科学）を取得。その後、日本女子大学助教を経て、2022年より江戸川大学社会学部講師として現在に至る。専門分野は、「体育・スポーツ哲学」、「オリンピック研究」。大学では、「スポーツ社会学（公共スポーツ）」を担当し、他大学にて「スポーツ哲学」、「健康スポーツ論」を担当。



### 「開催趣旨」

研究者としてのキャリア初期あるいは大学院生の時期においては、将来のことや研究の進め方、さらには経済的な面等において不安を感じることは誰もが経験してきたことと思われる。そこで、第3回目となる今回の若手の会セミナーでは、「アーリーキャリアの過ごし方と必要なサポート—博論・就職・テニチャー」と題し、大学院生時代の苦難の乗り越え方や多様な就職の形について、それぞれ異なる背景をお持ちになり、尚且つ様々な舞台でご活躍されている演者の先生方をお招きし、お話し頂いた。また、講演のみならず、フロアとの質疑応答やグループディスカッションを通して、大学院生時やキャリア初期において必要なサポートについて、参加された方々よりご提案やご意見を伺い、今後の支援のあり方について検討することとした。

### 「当日のスケジュール」

|             |                      |
|-------------|----------------------|
| 13:00～      | 開始・趣旨説明・演者の先生方のご紹介   |
| 13:10～14:30 | 演者の先生方によるご講演         |
| 14:40～15:00 | パネルディスカッション          |
| 15:00～15:20 | フロアとの質疑応答            |
| 15:30～16:00 | グループディスカッション         |
| 16:00       | 閉会挨拶、記念撮影、アンケートの記入依頼 |

### 「演者」

- ・小口 貴久 氏（公益財団法人日本オリンピック委員会）
- ・小倉 かさね 氏（順天堂大学）
- ・木村 駿介 氏（静岡産業大学）
- ・中西 紘士 氏（広島修道大学）
- ・野上 玲子 氏（江戸川大学）

### 「コーディネーター」


- ・雨宮 怜（体育心理学領域）
- ・平塚 卓也（体育・スポーツ政策領域）
- ・藤川 和俊（体育史領域）

○開会およびセミナーの趣旨説明

第3回 日本体育・スポーツ・健康学会若手の会セミナー

# アーリーキャリアの 過ごし方と必要なサポート - 博論・就職・テニユア -

コーディネーター：  
日本体育・スポーツ・健康学会 若手研究者委員会  
雨宮 怜・平塚卓也・藤川和俊



○演者の先生方によるご講演


- ・小口 貴久 氏

本日の内容

2002 ソルトレイクオリンピック  
2006 トリノオリンピック  
2010 バンクーバーオリンピック

1997 信州大学入学  
2001 信州大学大学院入学  
2001 信州大学卒業  
2004 信州大学大学院修了  
2011 モリ岡NTCスタッフ  
2015 JOCスタッフ  
2018 日本体育大学大学院入学  
2021 日本体育大学大学院修了

Copyright © Japanese Olympic Committee. All Rights Reserved.




- ・小倉 かさね 氏

2023/03/19 第3回日本体育・スポーツ・健康学会 若手の会セミナー

# アーリーキャリアの過ごし方と必要なサポート - 博論・就職・テニユア -

スポーツ科学分野の特徴に合わせた研究支援について

順天堂大学  
健康総合科学先端研究機構／研究戦略推進センター  
URA小倉かさね





・木村 駿介 氏

博士課程後期課程最終年度の激動

- ・無事に博論を提出 ⇒ 2020年3月修了に
- ・立教大学に内定
  - ・・・ただし、採用は10月から
  - ⇒ 学内でのRA等のアルバイトが原因

結果

- ・半年間のフリーター生活を決意
- ・2020年10月～2022年3月  
立教大学コミュニティ福祉学部で教育研究コーディネーターとして勤務
- ・2022年4月～ 静岡産業大学スポーツ科学部で勤務



・中西 紘士 氏


Hiroshima Shudo University

それぞれのキャリアにおける私の意識

公立小学校 → 附属小学校 → 博士課程前期 → 大学教員 → 博士課程後期

(理論と実践の融合の芽生え)


- ・免許状更新講習がきっかけ (指導教官との再会)
- ・附属小学校の特殊性 (魅力・教師教育者としての意識)
- ・家族の状況との兼ね合い (金銭面、環境面)
- ・新任研における衝撃 (他教科の専門家からの指摘)
- ・科学研究費 (奨励研究) 獲得と研究活動の推進
- ・研究的な実践の積み重ね  
(自分で実践したことを自分で理論的にまとめる)



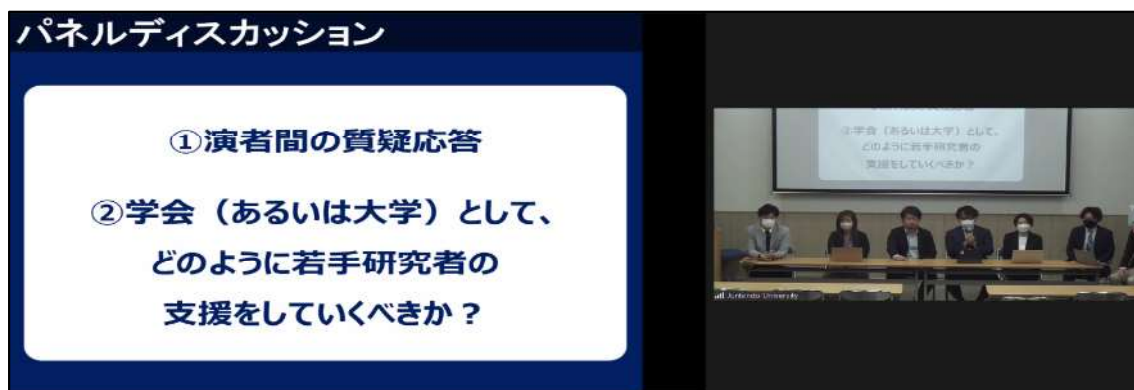
・野上 玲子 氏

博論×仕事×育見  
＜思考編＞

- 博士課程：2015年～2018年，東京学芸大学特任講師，娘4歳～6歳（保育園）
- 指導教員から「3年で博士論文を書き上げてください」と言われる。  
→3年間、アドレナリンが出っ放し、一秒も無駄にしない生活。一秒で机。
- 3年間、苦痛、辞めたい、無理、と思った日は一度もなかった。  
→並大抵の意志ではなく、最大の「覚悟」を持って入学したため。自分都合。  
→しっかり勉強して良い研究者になりたいという一心、指導教員も後押し。



○パネルディスカッション



○集合写真（オンライン会場）



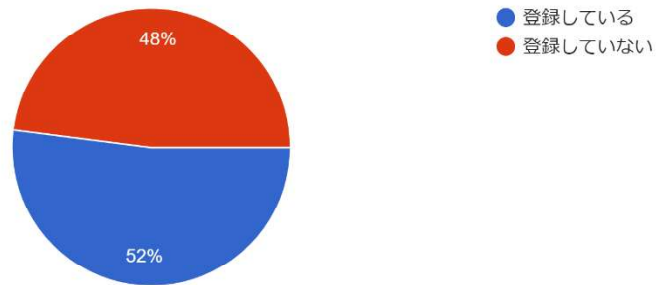
○集合写真（オンサイト会場）



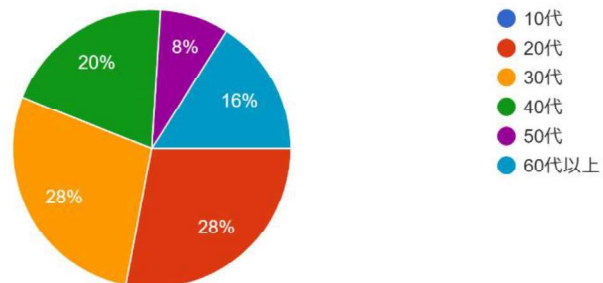
## セミナー後のアンケート集計結果

- ・ 回答数：25
- ・ 集計期間：2023年3月19日～3月25日

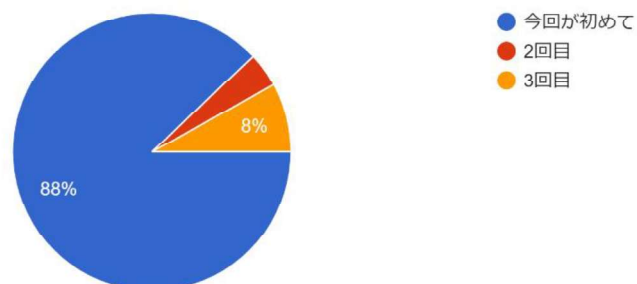
若手の会メーリングリストへの登録の有無を教えてください。（必須）  
25件の回答



あなたの年代を教えてください（必須）  
25件の回答



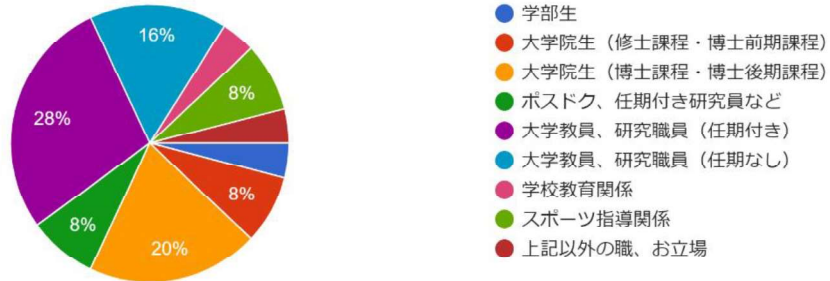
「若手の会セミナー」への参加は何回目ですか？（必須）  
25件の回答





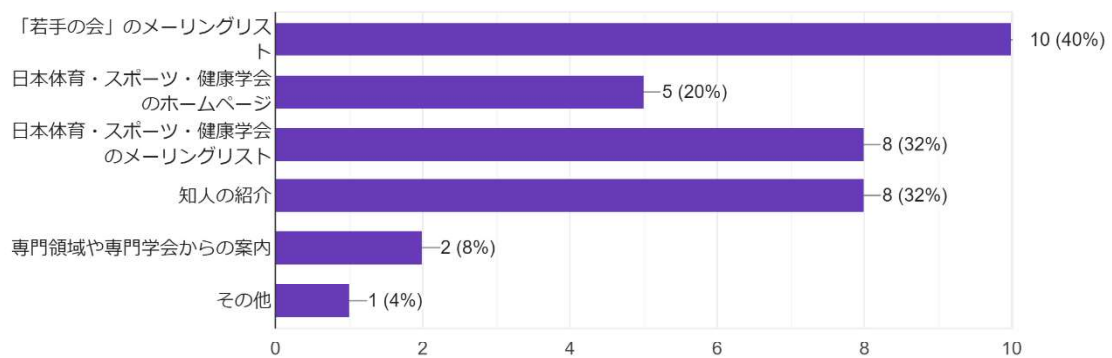
あなたのお立場（雇用形態）を教えてください。（必須）

25件の回答



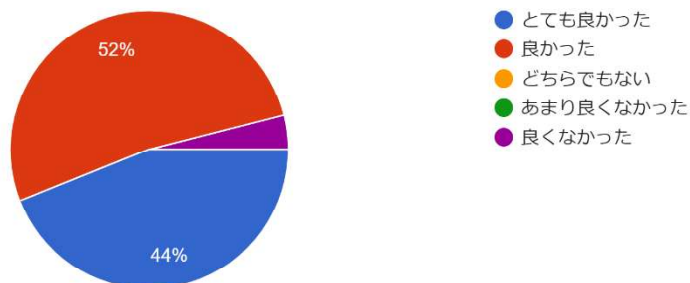
今回のセミナーを知ったきっかけについて教えてください（複数回答可）

25件の回答



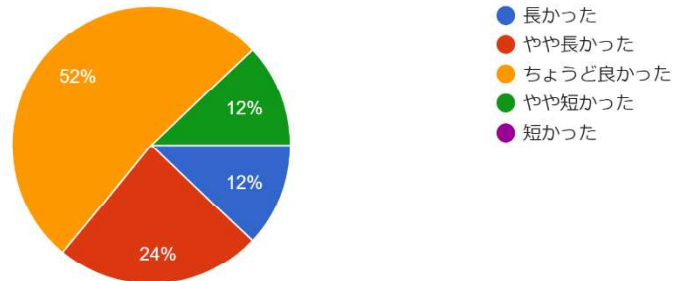
セミナー全体の内容はいかがでしたか？（必須）

25件の回答



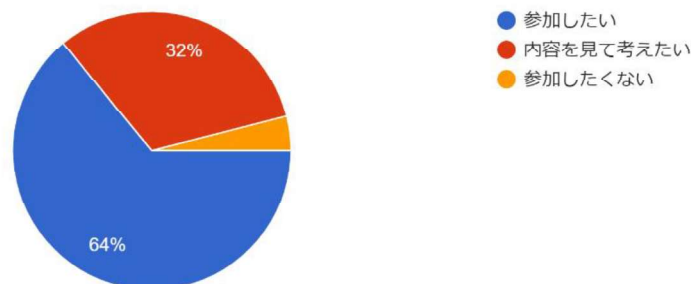
セミナー全体の時間はいかがでしたか？（必須）

25件の回答



次回以降も「若手の会セミナー」に参加したいと思いますか？（必須）

25件の回答



**本セミナーに関するご感想やご意見について、ご自由にお聞かせください。（任意）**

- ・非常に貴重な機会で楽しく参加させてもらいました。
- ・初めて参加させていただきましたが、多領域の方々と繋がりができ、大変有意義でした。
- ・もっと参加者数も多く対面で実施できればと思います。次回は期待しております。
- ・もう少しドロドロした話をした方が、若手の転ばぬ先の杖となると思う（メンタルヘルスの維持する上で）。
- ・多くの先生方の博士課程での大変貴重な経験の話を聞くことができ、すごく刺激を受けました。これから博士課程へ進学する身からすると、これから大変なことが待っていると不安がありつつも、それに乗り越えないといけない覚悟ができました。
- ・このような機会を設けていただき、本当にありがとうございました。
- ・今回の問題は若手に限っていないと感じています。
- ・大学院での生活は金銭面等の不安が常に付きまとうので、先輩に当たる今回の登壇者の方々の話を聞くことが出来たのはとても有意義であった。
- ・1)登壇者が多すぎて、全体として冗長になったと思う。2)若手の要望だけでなく、年長者の意見（弁明？）も聞いたほうがよかった。3)今回、比較的成功的にしている若手の意見が聞

けたので、よかった。

- ・私は研究分野は教育心理学ですが、どのように大学院生活を送れば良いのか非常に参考になりました。
- ・とても良い機会でありありがとうございました。次回以降、公募書類を書き、採用を判断される立場の方々と交えたセッションはいかがでしょうか。視点が異なりますので参考になるのではないかと思います。
- ・自分は修士まででしたが、公演された先生方は皆様、楽々と博士になられたわけではなくご苦労されていたことが、とても勇気づけられ、励ましの言葉になりました。
- ・対面とオンラインが併用での実施とのことで、ご準備等大変だったかと思います。開催いただきありがとうございます。自身は対面での参加だったのですが、休憩中やセミナー後に雑談ベースで先生方・参加者の方とお話しできたのがやはり安心できました。また、ブレイクアウトルームでも Wifi を貸していただき参加できたので、大変助かりました。改めてありがとうございます。
- ・若手ではありませんが、演者に知り合いがいたこと、若手がキャリアについてどのように考えているのか知りたいと思い、参加しました。途中までの参加でしたが、大変参考になりました。若手の方々には大変有意義な情報等があったと思いますが、参加者が少なかつたようでもったいなかったと思いました。
- ・先生方の貴重なご意見を伺えて、今後のキャリアの参考になりました。
- ・大変な思いをされた中での教育研究職への就職だと思いますが、どのような支援を誰（機関）にいただいたのか、というようなことも伺ってみたいですね。

**今後の「若手の会」主催のセミナーで取り上げてほしいテーマ等がありましたら、教えてください。（任意）**

- ・生活と研究の両立
- ・大学院修了後の就職先の幅（大学教員以外にも民間企業でこんな仕事をしていますであったり、この分野では博士号が活かせるなど、研究者になる以外の道を少しでも示していただけるとありがたいです。）
- ・1)若手が体育スポーツをどうしたいのか、2)国際的にも誇れるものが多々ある日本の体育スポーツを見直す
- ・キャリアっていうけど、どこまで真面目にキャリア形成を意識していたか、またキャリア選択の場面で、あきらめざるをえなかった事・なんの理由であきらめたか等のエピソードがあればお聞きしたいです。
- ・体育・スポーツ領域ではやはり女性研究者はまだまだ少なく、身近にも多くいらっしゃらないので、色々な事例として女性研究者の研究・キャリアについてお話を伺いたいと思います。

（報告者：中澤雄飛／体育哲学領域）